

# CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	尚綱学園九品寺キャンパス大学7号	階数	地上5F	
建設地	熊本市中央区九品寺2丁目6番78号	構造	RC造	
用途地域	第二種住居、近隣商業、商業、準防	平均居住人員	330 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	1,600 時間/年	
建物用途	学校、	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2021年1月 予定	評価の実施日	2019年11月28日	
敷地面積	29,703 m <sup>2</sup>	作成者	(株)奥村組 長谷川	
建築面積	806 m <sup>2</sup>	確認日		
延床面積	3,364 m <sup>2</sup>	確認者		



## 1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

環境品質 Q

環境負荷 L

BEE = 1.2

■ BEE (環境効率) =  $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能 (ランク表示)

排出率

**80%**

## 2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点												
		<b>77</b>												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点	<b>70.0</b>												
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	評価点	<b>63.7</b>												
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	評価点	<b>87.5</b>												
【重点事項4】 循環型社会の実現	評価点	<b>92.2</b>												
<p>■ 熊本県重点評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>判定値 (評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td>★★★★★</td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td>★★★★</td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td>★★★</td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td>★★</td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td>★</td> </tr> </tbody> </table>		判定値 (評価点)	ランク表示	100点以上	★★★★★	80点以上100点未満	★★★★	60点以上80点未満	★★★	40点以上60点未満	★★	40点未満	★	
判定値 (評価点)	ランク表示													
100点以上	★★★★★													
80点以上100点未満	★★★★													
60点以上80点未満	★★★													
40点以上60点未満	★★													
40点未満	★													
※評価点は、100点以上が推奨です。														

# CASBEE<sup>®</sup> - 建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	尚綱学園九品寺キャンパス大学7号	階数	地上5F
建設地	熊本市中央区九品寺2丁目6番78	構造	RC造
用途地域	第二種住居、近隣商業、商業、準防	平均居住人員	330人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,600時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年1月 予定	評価の実施日	2019年11月28日
敷地面積	29,703 m <sup>2</sup>	作成者	(株)奥村組 長谷川
建築面積	806 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	3,364 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.0

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

### LR 環境負荷低減性

**LRのスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

### 3 設計上の配慮事項

**重点事項総合評価** 評価点 = 77

**重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進**  
評価点 = 70.0

**重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現**  
評価点 = 63.7

**重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全**  
評価点 = 87.5

**重点事項4: 循環型社会の実現**  
評価点 = 92.2

#### 重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**尚綱学園九品寺キャンパス大学7号館建設工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>			<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.2</b>	0.15	-	-	<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	
1.2 遮音				T-2のサッシを設置している。		<b>3.6</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						5.0	0.30	<b>3.0</b>	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.30	<b>3.0</b>	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	0.20	<b>3.0</b>	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	0.20	<b>3.0</b>	-	
1.3 吸音						<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>3.0</b>	0.35	-	-	<b>3.0</b>
2.1 室温制御						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.60	<b>3.0</b>	-	
2 外皮性能						3.0	0.40	<b>3.0</b>	-	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
3.1 昼光利用				昼光率は教室で2.28%と満たしている。		<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 昼光率						4.0	0.60	<b>3.0</b>	-	
2 方位別開口						-	-	<b>3.0</b>	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	<b>3.0</b>	-	
3.2 グレア対策						<b>2.0</b>	0.30	-	-	
1 昼光制御						2.0	1.00	<b>3.0</b>	-	
3.3 照度				平均照度656lxと満たしている。		<b>4.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.8</b>	0.25	-	-	<b>3.8</b>
4.1 発生源対策				F☆☆☆☆をほぼ全面的に使用している。		<b>4.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質						4.0	1.00	<b>3.0</b>	-	
4.2 換気						<b>3.3</b>	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.33	<b>3.0</b>	-	
2 自然換気性能				敷地周囲と各種排気口6m以上の離隔がある。		3.0	0.33	<b>3.0</b>	-	
3 取り入れ外気への配慮						4.0	0.33	<b>3.0</b>	-	
4.3 運用管理						<b>4.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御				建物全体を禁煙としている。		5.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.3</b>	0.40	-	-	<b>3.3</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						3.0	-	<b>3.0</b>	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	-	<b>3.0</b>	-	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観						3.0	0.50	<b>3.0</b>	-	
2 リフレッシュスペース						3.0	-	-	-	
3 内装計画						3.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理						<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				防汚性の高い仕上げ(内壁・床面・外壁)を採用している。		5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>4.1</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				タイル貼を使用している。耐用年数40年以上		5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				石膏ボードの上にビニルクロスを使用している。耐用年数11年以上		4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				給水管はVLP、排水管はVPのレベルBを使用し、Eは不使用。		5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				屋外高圧受電盤を使用している。耐用年数25年		4.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>3.4</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備				被害の重要度に応じて系統を区分し災害時に配慮している。		5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備				節水型器具を採用している。		4.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						2.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.2</b>	0.30	-	-	<b>3.2</b>
3.1 空間のゆとり			<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比 0.27	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		床荷重 3500N/m <sup>2</sup>	<b>4.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
3.3 設備の更新性			<b>2.6</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		2.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.4</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.6</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			<b>3.0</b>	0.13	-	-	<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.70	<b>4.0</b>	0.63	-	-	<b>4.0</b>
4 効率的運用			<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
1 水資源保護			<b>3.8</b>	0.20	-	-	<b>3.8</b>
1.1	節水	節水コマに加えて節水型機器などを用いている。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.7</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用している。	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>3.4</b>	0.60	-	-	<b>3.4</b>
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	配筋に電炉鉄筋を使用	5.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	砕石は再生砕石、床塩ビシートはエコマーク商品、インターブロックは再生	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1	有害物質を含まない材料の使用		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
1 地球温暖化への配慮		(自動計算)	<b>3.8</b>	0.33	-	-	<b>3.8</b>
2 地域環境への配慮			<b>2.3</b>	0.33	-	-	<b>2.3</b>
2.1	大気汚染防止		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		<b>2.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	照度基準を考慮している。	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE<sup>®</sup> 熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。

### Q1 室内環境

注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

### Q2 サービス性能

注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

### Q3 室外環境（敷地内）

注) 「Q3 室外環境（敷地内）」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

### LR1 エネルギー

注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

### LR2 資源・マテリアル

注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

### LR3 敷地外環境

注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

### その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

## 熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 尚綱学園九品寺キャンパス大学7号館建設工事

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	77
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				70	0.40	28.00
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				63.7	0.20	12.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				87.5	0.20	17.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	4.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				92.2	0.20	18.44
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	4.1	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

## ■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

## ◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

## ◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。  
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数